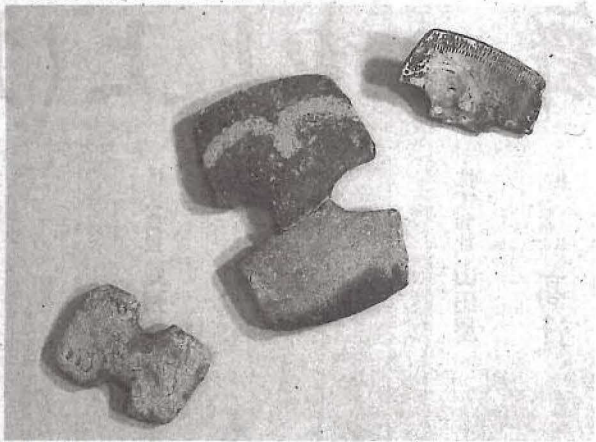


松山市土居窪遺跡・砥部町水満田遺跡から出土した分銅形土製品—弥生時代中期、県教育委員会蔵・県歴史文化博物館保管



えひめの歴史文化モノ語り

県歴博収蔵資料から ⑭

「弥生人はどのような顔をしていただろうか？」

瀬戸内海沿岸に分布する

分銅形土製品は、この質問

に答えを与えてくれるモノ

の一つである。全国で約9

00点以上出土し、うち95

%が中国・四国地方で出土

している。江戸時代の両替

商で使用された秤(はかり)

の重り「分銅」に似ている

ことから考古学ではこの名

称で呼ばれている。

県内では約130点が出

土し、松山市文京遺跡を中

心とした松山平野ではほぼ半

数の約60点の出土がある。

分銅形土製品の中には人の

顔を表現したものがあり、

県内出土資料には本事例が

多いことが特徴である。

分銅形土製品

形の分類研究によると、形状が旧国単位で地域性があることが指摘されている。山口県では方形、岡山県では円形が多いとされている。愛媛県では方形、円

形、隅丸方形がある。領域と比較すると、目と口が曲線で描かれ、全体的に温かな表情をしている。この土地に暮らした人々の感性を表しているであろう。

写真中央の松山市土居窪遺跡出土資料は、眉を表現していた粘土紐(ひも)が剥がれて残存せず、目や口

から用途の一端を推測することはできる。多くは上部と下部に割れて出土し、意図的に割ったと想定できると考えられる。先の事例のように割れたことが分かっている。分銅形土製品が人形や形代(かたしろ)のようなマツリに使用されたとする説も有力である。

写真中央の松山市土居窪遺跡出土資料は、眉を表現していた粘土紐(ひも)が剥がれて残存せず、目や口

現状では、その用途は明確でないが、数々の土のキヤンパスに表現された弥生人の「顔」であることに間違いはない。さて、弥生人は何を考えてこのような顔を表現し、なぜ割ったの

弥生人 線や粘土で「顔」

形、隅丸方形がある。

顔は線や粘土で表現さ

れ、目と口は線で表し、鼻

と眉は粘土を張り付け、耳

は穴で表すものが多くあ

る。県内出土資料を周辺地

は表現されていない。上下

に分かれて出土したものが

接合して完形に復元するこ

とができる事例である。

分銅形土製品の用途は明

らかではないが、出土状況

その要因の一つに、マツ

リ(祭祀(さいし)行為)

として割ったことが想定さ

れる。後の飛鳥・奈良時代

には木製の人形(ひとがた)

を使用したマツリが行われ

(専門学芸員・富田尚夫)

▲月2回掲載します